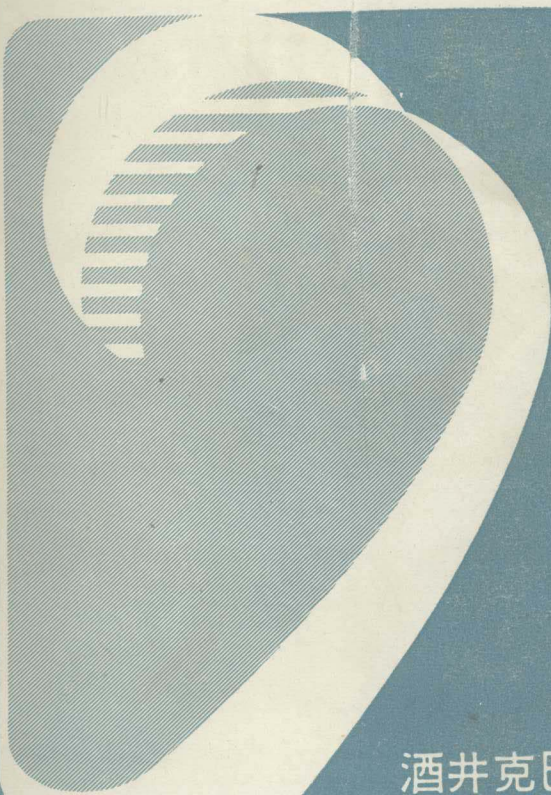


常用

現代用語新辭典

1985



酒井克巳編著

梧桐書院

常用
現代用語新辭典

酒井克巳編著

梧桐書院

人間が何のためにこの世に生まれてきたかについては、素朴に考えて、個人にとって、直接の目的を自覚して生まれてきたわけではない。強いて言えば、種族保存という生物のしきたりに従ったまでのことである。しかし生まれてきた以上、何のために人は生きるのかと言えば、種族保存という生物のしきたりの一翼をになうため、生活はその手段であって、そのしきたりにも従えないような生き方をしたのでは、これ以上の不幸はない。だから人々は幸福を求めるのである。人は決定的な不幸の中でも最小限の幸福を求めてやまないのもそのためである。それを思うと、人間は生まれてきた以上、幸福に生きようとするのは当然なことにちがいない。

人が幸福に生きることを望むとすれば、人が幸福に生きるためには何が必要かという問題が出てくる。これについてまず考えられることは、人が幸福に生きられるような社会を作らなければならないということである。そういう社会を作るためにはよい政治が行なわれなければならない。〈主権在民〉というのは、幸福に生きられるような社会を作る手段を政治に求め、よい政治を作るために、幸福に生きることを求めている人自身がその主体となって考え行動するということである。

人が主体となるためには、人はひとりひとりが責任をもって何かをしなければならない。何をするかについて必要なことは人はそのために必要なことを考えることである。社会の生活の中で、人は一般にどんなことを、どんなふうに考えているかを広い範囲にわたって知ることによって、それがよい考えかよくない考えかを見分けることができる。それによって改良すべき点に気がつけば改良もできる。こうしてよい社会、よい政治は作られていく。人間に〈知る権利〉があるというのも、結局はこのためである。〈現代用語〉は現代の社会で広く使われている言葉で、現代の社会に生きる人たちの考え方がその中に表現されているものである。これをはば広く知ることが、現在の社会をどのようによくするかを考える上に必要な手だてになる。この本がその点で少しでも役立ってくれれば幸いである。

この本の内容の配列その他について

配列の順序について

- ①配列はあいうえお順にしましたが、次の点にご留意下さい。
- ②お、つなどで、例えばおうがた（大型）などおーと発音する場合に、他の辞典では〈おおがた〉と表示してありますが、本書では〈おう〉に統一しました。さがしやすくしたためです。
- ③国家などの場合に、一般には〈こっか〉として、〈こつ〉のところにしますが、本書では〈こくか〉として〈こく〉のところに配列しました。国際など国のつく言葉をなるべくまとめたかったためです。
- ④送りがない 例えば〈取り引き〉を〈取引き〉に統一しました。しかし言葉によって読みちがいを避けるために必要な場合には、例えば〈話し合い〉などのように送りがなを省略しない場合もあります。

特殊な記号その他について

- ①文中の⇒の記号は、反対語・同義語・参考語・関係語など広く〈参照〉の意味に使った記号とご理解ください。
- ②文中の年号は国際関係のものは西暦で示し、国内関係のものは昭和何年としましたが、国際関係と国内関係の両方にまたがる場合には昭和何年（19……）としました。なお年号対照に便利のように巻末に年号対照表をのせました。
- ③どちらでも引けるように、例えば本文ではエカフェの見出しで出し、更に略語（頭字語）編に ECFAFE として出しておきました。〈頭字語〉という言葉を使いましたが、頭文字をとって作られた言葉という意味とご承知ください。
- ④外国語略語（頭字語）編と和文の本文とは、できるだけ連係を保つようにしました。また略語編と和文編の両方に出した言葉もありますが、これは和文が引きやすいと思われる人と、英文の方が引きやすいと思われる人と、いずれにも引きやすい形を考えたからです。
- ⑤極端に専門的な言葉の解説は、余りに専門的にならないように、外郭だけを紹介するにとどめました。もちろん専門家には不満もあるでしょうが、専門家を対象にしたものではなく、専門家以外の人々を対象に分かりやすい形で紹介するにとどめたこともご理解下さい。
- ⑥この辞典は毎年多少ずつ不要になったと思われる言葉を、新しい言葉と入れかえています。従って発行年度のちがいによって、内容の一部がちがっているのはこのためとご理解下さい。
- ⑦一時流行したが、余り使わなくなった言葉、〈竹の子族〉、〈クリスタル〉などの言葉は省略したものもあります。ご承知下さい。

あ ・ ア

あ

アイ・エヌ・エス [INS] [Information Network System] の略。高度情報通信システム。昭和58年から東京の武蔵野・三鷹地区をモデル実験地区とし、60年から筑波学園都市で商用サービスを予定している電電公社のキャプテンシステムの超大型計画。これが完成すると3人同時通話、テレビ会議、在宅勤務、テレビ・ショッピング、ホーム・バンキング、医療相談等在宅のまま用が足せて便利になる。⇒テレビショッピング、ホームバンキング、キャプテンシステム。

アイ・エム・エフ [IMF] ⇒国際通貨基金。

アイ・エル・オー [ILO] ⇒ILO (475頁)。

愛玩動物 (あいがんぶつ) ⇒ペット。

アイ・キャッチャー [eye catcher] 広告用語で、広告面で特に印象を深めるもの。目的の商品をズバリ示さずに印象に残る背景や人物などを配して、印象的に目的の宣伝効果を高める方法。新しい広告技術である。

愛国心 (こくにん) 自国の発展のために他国を侵略するといった第2次大戦中の愛国心の高揚が結局は国を破滅に追いやったことから、愛国心という言葉そのものにも抵抗を感じさせた戦後ではあったが、真の平和国家では、自国の平和と安全な生存の維持のためにも平和世界を築き上げ、自国の存在を世界にとっても価値あるものにしようとする情熱こそが、真の愛国心であって、この感情は故郷に寄せる愛郷の情の発展した形のもので、自然な人間の生活感情であると言えよう。⇒帰趨本能、母国国。

アイシー [IC] integrated circuit (インテグレイテッド) 集積回路の略称。電子回路は、電子部品を使って必要な機能の個々の部品を組み合わせて作るが、ICはその機能をそっくり一つのパッケージ(容器)の中に組みこんで1つにまとめたもの。⇒集積回路。

アイソトープ [isotope] 同位元素。原子番号が同じで質量数のちがう元素。放射能を持つのをラジオ・アイソトープ(放射性同位元素)と呼び、天然に存在する天然ラジオ・アイソトープと原子炉から副産物として生産される人工ラジオ・アイソトープとがある。人工のものは容易に作れるので放射線源として医療・工業・農業などで利用される。

相対取引 (たいぐひ) 売手と買手が一對一で話し合っ取引きすること。

相対レート (あいたい) 輸出業者が輸出手形を円にかえる場合、固定相場制の時には一定の割合(相場)で取引されるが、変動相場制で、為替レートがその時の実勢によって変化するときには、その時の実勢に応じたレート(例えば平常相場は1ドルにつき250円が、1ドル215円になればその値段)で輸出業者は為替銀行と直接相対で取引きをする。この相対取引の為替相場を相対レートという。この場合輸出業者は思っていたより

は手持外貨（例えば輸出手形）を安く売らなければならないこともある。この損失を為替リスク、損失幅をリスク度という。このような場合のレートの変動は、これをフロートするという。⇒為替市場、フロート。

アイデア [idea] 考え、思いつき。情報化社会の企業では一般的な考え方でなく、特殊で新鮮な考えや思いつきが尊重される。独創的、創造的という意味が強い。常に新しい発想で企業を支えることが必要なことから、アイデア作りの仕事をする人はアイデアマンとして重要視される。

アイデンティティ [identity] 同一、一致、自体、本体、犯人などの身元などの意味の英語であるが、今日では多く「主体性」の意味に使われる。これの背景には自由という考え方がつきもので、他人に支配されない自分本来の生き方である。米国の精神分析学者エリック・H・エリクソンに〈アイデンティティ論〉の著書がある。

アイドリング [idling] 自動車などが停止したままエンジンをかけておく状態。交差点などで一時停止のままエンジンをかけておくときが、一番濃度の高い一酸化炭素が出される。⇒一酸化炭素。

アイドル [idol] 偶像。盲目的に崇拝される人や物。盲目的な崇拝が、信仰になると、右仏や仏像などを崇拝する偶像崇拝になる。盲目的な崇拝は偉大な価値または権威の虚構から生まれるもので、木像の膚をなでた手を自分の患部にあてると病気が治ると信じられる場合などはそれ。

アイ・バンク [eye bank] 目の銀行ともいうべきもの。角膜を移植して失明を治療する医術の発達で、あらかじめ角膜の提供者を登録しておいて、その人の死後その眼球を保存・供給する機関。昭和33年日本でも角膜移植法でこの方法が認められている。⇒角膜移植。

アウトドアスポーツ [outdoor sports] 屋外でする運動競技。反対語は、インドアスポーツ（屋内運動競技）。⇒フィールドアスレティック。

アイロニー [irony] 皮肉、風刺、反語のこと。いじのわるい遠まわしな非難、悪口をいわないような形で悪口をいうこと。また、事件や状況が予想とは全く逆の結果になるという意味もある。

アウタルキー [Autarkie(独)] 自給自足または自給自足国。自国の国民の必需物資を自国の生産品でみだすことで、近代経済の国際社会では他国の生産のおかげをこうむることが多く、完全なアウタルキーはあり得ない。しかし、第二次大戦後、世界の諸地域でブロック経済の仕組みが考えられ、各経済圏内の自給自足体制の傾向が生まれた。EECの発想もそこにあった。⇒EEC、ブロック経済。

アウトサイダー [outsider] 門外者、局外者。組合・団体などからいうとそともの、よそものなどの意にもなる。経済の方では外部競争者。

アウトライン [outline] だいたいの輪郭(りんかく)、大筋、あらまし。「アウトラインだけ分かれば結構」などという。

青色申告 (せいしう) 中小企業に対する特別な申告による納税制度で、中小企業に必要な配慮や特別措置がいろいろ設けられている。申告が原則だ

から申告した以上、税務署は帳簿や書類を調べた上でなければ、更正決定はできないことになっている。⇒更正決定。

青刈水稻（**あおかりいずい**） わが国では米が余って減反や転作で農家が頭を悩ましているが、水稻を青いうちに刈り取って、牛の飼料にしようというもの。米産地で見られる一種の新しい転作農業。

アオコ 湖沼の水面を緑色に覆うドロドロした物質。湖沼に流れこむ汚水や排水中のリンや窒素などの量がふえると、それが植物性プランクトンなどの栄養になり、緑色のプランクトンが大繁殖して水中の酸素を奪い水質を汚染して魚族などを大量に死滅させる。⇒富栄養化、赤潮。

青写真（**あおしん**） 建築や機械などの設計に使われる青色の線で示される写真。この意味から具体的な計画や目的のあらましをも青写真という。

青線区域（**あおせんいき**） 公娼制度の廃止から街に現われたモグリの売春宿兼業の飲食店や温泉マークの旅館などの密集している区域。⇒風俗営業。

青田売り・青田買い（**あおたうり**） 稲の成熟前に収穫高を見越してあらかじめ産米を売買することから出た言葉で、未完成なものを完成を見越して売買すること。人材確保のために卒業前に雇用の取り決めをしたりすることなど、多くの問題を起こしている。

あおり行為（**あおり**） 国家公務員法98条2項に使っている言葉で、禁止されている官公労働者の争議行為を外から扇動（**あおり**）したり、そそのかしたりする行為で、国家公務員法も地方公務員法も、これを3年以下の懲役または10万円以下の罰金に処すと規定している。

アカウント・エグゼクティブ [account executive] 一般に AE と呼ばれるもので、広告代理業者が得意先広告主 (account) の広告計画に参画して、これに必要な市場調査、広告計画、広告制作など一切の専門的な仕事をする職業担当者のこと。

赤い羽根（**あかい**） 共同募金運動に参加協力するしるしとして赤い羽根を渡されるので赤い羽根運動ともいう。昭和22年からの国民的な運動で、毎年10月から3か月間にわたる行事。主催は社会福祉法人中央募金会。

赤潮（**あか**） 海のプランクトンが異常に発生し、そのために海水が赤などの色を呈する現象。プランクトン（円形・楕円形）のホルネリアの異常発生で水中の酸素が不足し魚介類を死滅させる。瀬戸内海の養殖漁業の被害も大きい。原因や対策はまだ明らかにされていない。⇒アオコ。

明石原人（**あかしげん**） 兵庫県明石市の海岸で発見された化石人類。洪積世初期のものと推定され、類人猿に近いものといわれる。

赤字国債（**あかじさいこくさい**） 支出増、税收減その他による経常収入の不足を補うために発行する国債。国債の発行は、財政法第4条で公共事業費などにあてる建設国債に限られ、国会の議決を経た範囲内で認められているくらいで、非生産的な赤字国債は不健全財政やインフレの原因になるという理由でおさえられている。⇒インフレーション。

赤字再建団体（**あかじさいけんだんたい**） 都道府県市町村団体などで、歳入が少なく歳出



に困難をきたして独力では運営できなくなった自治体は、自治省から「財政再建準用団体」の指定を受けて、一時借入金の一定利子を特別地方交付税の援助で賄うことができるが、国の監督を受けて、重要な活動に国の承認を受けるなど、一本立ちの仕事ができなくなる。⇒特別地方交付税。

赤字財政 (せきし) 租税収入その他の経常収入と支出が均衡せず、収入が不足する状態の財政。公債(国債)発行や政府紙幣の増発などによってこの赤字は補填(きん)されるが、それが長期化するとインフレーションの原因になるし、赤字財政の悪循環をくり返すことになりがちになる。⇒インフレーション、均衡財政、赤字国債。

赤字団体 (せきし) 一般には赤字団体というと地方公共団体(都道府県ならびに市町村)の財政が赤字になっていること。社会資本充実の要請が大きくなり建設事業費がふえることと、物価値上がりで人件費などの義務的経費がふえること。税收不足などが主な原因で、こうした赤字団体は今後もふえる傾向にあるとされている。⇒社会資本、赤字再建団体。

赤字路線 (せきし) 交通路線のうちで営業収入より支出の方が多い部分で地方路線に多い。国鉄赤字の原因は、この赤字路線にあるとして、路線廃止論も出るが、地元の住民には足を奪われることになるので反対が多く、いつも難問題になる。⇒第三セクター。

アカデミー賞 (アカデミー) アメリカ映画芸術科学アカデミーが、毎年主としてアメリカ映画を対象に最優秀作品や演技を表彰する映画賞で、日本映画では「羅生門」、「宮本武蔵」などがこの賞を受けた。

アカデミズム [academism] 大学などの権威主義的な学問至上主義、純粹に真理だけを追求し、世俗的な実的なものを一切排斥しようとする態度。ふつう会話の中で使われる「学問的にいえば」というその学問的という言葉が示す内容を持った語として使われる。

アカデミック [academic] 官学的、純粹理論的などの意味を持っているが、一般には学問的に、正統派などの意味に使う。⇒アカデミズム。

赤の広場 (せき) モスクワの中心部、クレムリン宮殿に接し、デモやその他の国家的行事に使われる広場。

空缶条例 (くわん) 清涼飲料水の空カンなどの投げ捨てが、各地の公害にもなっているが、昭和48年東京都町田市は飲料水メーカーに空カンの回収を義務づける条例を制定したし、京都市では缶代を小売価額に加算して販売し、空カンを返しに来た客にカン代を返すという条例を制定した。この京都方式をデポジット制といい、この方法は資源回収にも役立つ。

秋雨前線 (くわん) 秋には、夏の間日本付近にひろがっていた太平洋高気圧が南にさがり、冷たい大陸高気圧が勢力を強めてきて、その境界を作る前線が日本付近に停滞する。これを秋雨前線という。この前線上を低気圧が通ると雨になる。秋の長雨である。

アキレス腱 (アキレス) 踵(かかと)の骨の上についているすじ。専門的には、腓腹筋(ふくらはぎの屈筋)と平目筋(膝から足首までの内側の筋

肉)とを踵の骨に付着させている腱(人体中最大の腱で歩行に必要な急所、腱は骨の動く部分を骨に結びつける組織)。大切な部分なのにアキレス(神話上の英雄)が気づかなかったという体の部分のことで、思いがけない所にひそんでいる急所・難問という意味にも使われる言葉で「そこがあの問題のアキレス腱だ」などという。

アクアラング [aqua-lung] 水中で使う肺という意味。酸素ボンベをつけた潜水用具で、水中観察、水中散歩、水中撮影などのとき使われる。

悪循環 (じゅんかん) 一つの原因がわるい結果を生み、その結果が原因になってまた更に悪い結果を生むこと。この関係を繰り返すことを悪循環を繰り返すという。例えば飲酒が飲酒癖を、飲酒癖がアルコール中毒を、それがまた飲酒をというのも悪循環。

アグリーメント [agreement] 合意、承認、契約などの意味で、「アグリーメントを得た」といえば、意見が完全に合致したという意味。

アグレマン [agrēman(仏)] 一国の大使または公使が赴任する場合、赴任先の政府が事前に同意を与えること。自国に赴任してくる公使や大使が好ましくない場合は理由なく拒絶できる。

アクロバット [acrobat] 西洋風の曲芸、かるわざをする人。

揚げ超 (あげこ) 政府が民間に支払う金額より民間から政府が受け入れる金額(税收・国債発行など)の方が多い場合を引揚げ超過というが、これを揚げ超ともいう。⇒散超。

あざらし肢症 (いじょう) 手足特に腕が異常に短い先天の奇形。母親が妊娠の初期に服用した催眠薬が、サリドマイド系のものだったために発生した奇形児で、ドイツをはじめ日本など各国に発生した。被害者がそれに対して賠償を求めた裁判がサリドマイド裁判である。

アジア・アフリカ・グループ [Asian-African Group] AAグループ。アジア・アフリカ地域にわたる諸国が作っているグループで、日本も加えて69か国が加盟している。政治的立場は必ずしもまとまっていなかったが、地域的立場から結束力が強く国際的な発言力も強い。

アジア極東経済委員会 (あしあきくわくけいぎいいんかい) ⇒エカフェ。

アジア軍縮論 (あしあきぐんしゆくろん) 開発途上国問題、南北分離問題など多くの難問を抱えたアジア全域に、軍縮と経済発展によって平和を実現しようという構想。⇒南北問題。

アジア・ハイウェイ [Asian highway] トルコからインドネシアまで14か国を通り、中東と東南アジアを結ぶ延長55,000kmの国際道路。アジア未開発地域開発のために、国連アジア極東経済委員会(エカフェ)総会で採択決定されたもの。⇒エカフェ。

アシスタント [assistant] 助手、協力者などの意で一般に手伝ってくれる人のこと。アシスタント・マネージャーは副支配人。

アジト [agitpunkt(露)] ロシア語のアギトプункト(扇動本部)から出た言葉で、地下本部、秘密本部または拠点の意味に使われている。



アジプロ [agi-pro] 扇動 (agitation アジテイション) と宣伝 (propaganda プロパガンダ) の略で扇動的な宣伝活動のこと。

亜硝酸塩 (あけん) 食肉の鮮紅色を維持するため食品添加物として用いられるが、発癌性の危険があるとして食品衛生法で使用禁止の方向をとっている。⇒食品添加物。

アスレティック・フィールド [athletic field] アスレティックは体育などの意味。フィールド・アスレティックともいう。最近都市周辺に市民の運動、体育などのために、一定の区域内に坂道、谷川、森林その他でできるだけ自然の状態で、木登り、岩登りなど体育・運動の場として市民に開放している所が増えたが、そういう設備のある野外体育場のこと。

アスパック [ASPAC] ⇒ASPAC。

アセアン [ASEAN] 東南アジア諸国連合 (Association of Southeast Asian Nations)。マレーシア、タイ、フィリピン、シンガポール、インドネシアの5か国で構成する経済的、文化的相互協力機構。1967年結成、昭和52年同首脳会議に出席した福田首相は友好協力を強調、経済援助、文化交流などの協力を強調した。

亜大陸 (あいろく) 例えばインド亜大陸、グリーンランド亜大陸などという陸地の部分で、亜大陸は半島にしては大きすぎるし、大陸にしては小さすぎる陸地で、亜大陸は大陸に次ぐもの、大陸に準ずるものの意。英語ではサブ・コンチネント (sub-continent)。インド亜大陸はインド、パキスタン、バングラデシュを含む地域。

アーチェリー [archery] ⇒フィールド・アーチェリー。

アチーブ [achievement test] アチーブメント・テスト (学力テスト) の慣用略語で、学習の結果をためすテスト。

圧気工法 (あきこう) 地下鉄、地下街、地下室などの地下工事で、地下を掘削 (くわく) する場合に、地層のすき間に空気を機械で送り込んで、水もれなどを防ぐ方法。⇒死の空気。

斡旋収賄 (あつせんしゅう) 公務員が他の公務員に職務上の不正行為をさせることを条件に人からわいろを受け取ること。この場合その職務の公務員はもちろん、その公務員に不正を依頼したり命令したりした公務員も収賄罪で罰せられる (昭和33年新設)。

圧力団体 (あつりくたい) 政策や方針に対して、暴力ではないが、じわじわと圧力をかける組織的な団体のこと。圧力の背後に強い組織的な影響力を持っていることが特色。米価問題に対しては、常に農民議員を含めた農業団体などが政府に圧力をかけるといわれているが、その農業団体の背後には選挙にからむ組織票が圧力の本体になっている。

アテレコ アフレコから作った俗語的な言葉で、外国映画や漫画などの声を吹きかえること。アテはあてはめるの意。⇒アフレコ。

アド・オン方式 (あどうしき) add-on-system 借入金を月賦、年賦などの割賦方式で返済する場合の利息の計算方法の一種。一般には割賦返済ごとに



残額に対し利息を計算するが、アドオン方式では割賦返済の全期間中の利息を計算し、それを借入金に加えた合計を割賦回数で割り、毎回の返済金（利息の加わったもの）の額を均等にする方法。銀行ローンの返済は主としてこの方法によっている。

アドバイザー [adviser] 忠告・助言をする人、相談相手、顧問。

アトピー性体質 (あとい) 小児湿疹に似た皮膚炎にかかりやすい体質。慢性化しやすいが、学齢期になると大部分は自然に治癒する。皮膚が厚くなって、かゆい。

アトラクション [attraction] もとの意は呼びもの。映画興行などで、添えものとしてつける幕あいの実演などの演芸類の総称。

アトランダム [at random] 無秩序に、無作為に、任意に、手あたり次第にの意。世論調査などの無作為抽出も同じ意味。

アドリブ [ad lib(ラテン語)] 即興的という意味。台本にないセリフを舞台でいったり、ジャズ演奏などで即興的に技巧を加えて独奏すること。

アナキズム [anarchism] 無政府主義。19世紀ヨーロッパの自由主義を極端に推し進めた思想で、権力や管理等一切を否定する。そのために権力の存在や政府をも破壊しようとするが、これらの破壊は終局的には秩序の破壊につながり、この秩序の破壊は無秩序の秩序そのものの破壊になるという矛盾を持つ。この主義者をアナキストという。

アナログ [analog] 従来の針で時間を示す時計のように、機械的にデータを表現する方法をアナログという。⇒デジタル時計、データ。

アナクロニズム [anachronism] ⇒時代錯誤。

アニメーション [animation] 動画、漫画映画などのように画面の1コマ1コマを描いて連続撮影する特殊技術。

アノラック [anorak] 防寒防風用のずきんのついた短い服で、スキーや登山などに使う。もとの意味はエスキモー人の上衣の意。

アバンギャルド [art d'avant-garde(仏)] 前衛芸術。従来の伝統的手法に対して、その先頭に立って戦う美術運動で、前衛派と称する作品。

アバンチュール [aventure(仏)] 冒険。もともとロマンチックな言葉であるが、日本では一般に山登りその他の冒険的な行為という意味に使われるもするが、更にロマンチックに恋の冒険の意味にも使われる。

アピール [appeal] 世論への訴え。例えば平和アピールなど。

アヒルの水かき論 (あひるのみずかきろん) 「アヒルは、ただ水に浮かんでいるように見えても水の下でははげしく脚(む)を動かしているものだ」という意味で、何もしないように見えていても、実際はいろいろ手を打っているのだということ。

アブストラクト [abstract art] アブストラクト・アートを普通アブストラクトという。抽象芸術のこと。風景、静物などの形をそのまま絵にするのではなくて、作者の主観的な抽象で描く絵画や彫刻など。ピカソの作品など例に出される。

アフターケア [aftercare] 病後の療養、医者の手を離れた後も更に完治して社会に復帰できるよう、援助や保護の手を加えること。リハビリテーションにくらべて、そっと大事にするといった保護的な面が強い。⇒リハビリテーション。

アフター・サービス [after service] 品物を売ったあとでも、その品物について維持や修理の面倒を見ること。保証期間を設けてその期間内では修理を無料にするとか、部品をとりかえるとかするサービスもこの中に含まれる。保証がなくても売ったあともサービスすること。

アフタバーナー [afterburner] 排ガス減少装置。自動車エンジンで燃やしたガソリンから出る排出ガスの有毒物質を取り除く装置で、排ガスを更にもう一回燃やす直火式と白金触媒に排出ガスを吸着させる触媒式の2種。共に一酸化炭素、炭化水素を減らす、特に触媒式では90%、1万キロ走行時に40%除去するといわれる。⇒一酸化炭素。

アプリオリ [a priori (ラテン語)] 先験的、先天的などと訳される哲学用語。例えば赤ん坊が物音や振動に対して恐怖の観念をおこしたりするのは、経験や教育や習慣で学んだことではなくて、経験以前の本能的な感情であるとするように、先天的または本能的と同意義に使われる。

アプレゲール [après-guerre (仏)] 第一次大戦後の不安な世相の中で、戦前の一切の価値を否定して新しい生き方を求めようとした風潮を意味するフランス語で、日本ではこれを戦後派と訳し、第二次大戦後の虚無的な退廃的な傾向、またはそうした生活に身を投じた人々のことを意味した。また戦争体験のない戦後生まれの人という意味にも使われる。

アフレコ [after-recording] アフター・レコーディングの略。無声のフィルムに、あとからセリフや音楽を録音すること。

アプローチ [approach] 接近すること。ゴルフでグリーンの側からの寄せ打ちの意味のほか、一般に近づく状態を示す意味に使われる。

アメダス [AMEDAS] 気象庁が毎日気象情報で流す地域気象の自動観測システムで、現在1312か所に設置。各基地から雨量などを電話回線で東京の気象庁地域気象観測センターで集計したものをテレビなどで放送する。Automated Meteorological Data Acquisition Systemの頭字語。
天下り (てんかり) 高級官僚が公社や公団、外郭団体や在職中に関係を持った民間会社などへ、重要ポストとして再就職する。これを天下りというが、そのようなことから汚職や多額の退職金などいろいろ問題が生じるので、一般からの批判は絶えない。

アマチュア規定 (アマチュアリズム) IOC(国際オリンピック委員会)、IF(国際競技連盟)、日本では日本体育協会と加盟各競技団体などが設けている参加資格の規定で、「金銭的な目的に利用されてはならない」などを規定している。⇒アマチュアリズム。

アマチュア無線 (アマチュア無線) 無線技術の興味や研究のために行なう私設無線のことで、アマチュア無線放送を公認された者をハム (ham) という。

世界に約50万のハム局があるといわれ、日本でも毎年ハム人口が増加して10万局を超えるといわれている。

アマチュアリズム [amateurism] アマチュアスポーツのあり方は金銭的な報酬を受けずに、フェアプレイを楽しむべきものとする主義。国際オリンピック委員会は、厳重なアマチュア規定を設けてその主義を守っているが、もっと自由ということから、アマチュアリズムにも批判が出るようになった。⇒アマチュア規定。



アムネスティ・インターナショナル [Amnesty International] 思想・信条の理由から投獄や拘禁されている人々が解放されるようにする国際救援組織。1961年ロンドンで結成され、日本では1970年に日本支部を設置。アムネスティは、人権擁護の主張から活動している。

アメリカシロヒトリ [Hyphantria cunea Drury] 昭和23年頃からアメリカからきたヒトリガ科の白蛾。幼虫が初夏と初秋に大量発生してサクラ、プラタナス、桑などの枝葉に密集して食いあらす。

アメリカ帝国主義 (ていこくしゆぎ) 世界政策や戦略規模などからアメリカが世界制覇(せい)の野望を持っているという意味に使われる言葉。「アメリカ帝国主義は中日両国の人民共通の敵であり、全世界の平和を愛する人民共通の敵である」といった(1960年)毛沢東の言葉がある。

アメリカニズム [Americanism] アメリカ的なものの特徴の意で、アメリカ民主制の伝統の上に立ったアメリカ的な考え方。表面的には楽天的であるが、いざというときベトナム戦争での無差別爆撃にも見られるように、フロンティア精神が強調された支配主義精神の投影とも見られるものが出てくる。⇒アメリカ帝国主義、フロンティア精神。

アモロファス [amorphous] 非晶質金属。一般の金属は原子が一定の規則のように配列している(晶質金属)が、原子の配列が不規則なガラス状の金属を非晶質金属という。一般の金属より格段の強度、弾力を持つほかに電気抵抗、磁性などに新しい性質を持っているという新物質。一般金属(晶質金属)の原子配列が規則的ではあるが微細な部分では乱れがある(これを格子欠陥という)。それを利用して金属を曲げたり伸ばしたりしていたが、非晶質金属ではそうした強度の制限が取り除かれたわけである。

あゆみの箱 (こ) 芸能関係の人が世話人になって始めた心身障害児救済のための募金運動で、備えつけのあゆみの箱に義援金を入れる仕組み。

ア・ラ・カルト [à la carte (仏)] 一品料理の献立表。

アラブ・ゲリラ [Arab Guerrilla] パレスチナ・ゲリラともいう。中東戦争以来のイスラエルに対するテロ闘争。パレスチナ解放から中東全体の人民解放を目ざす諸集団から成り、PFLP(パレスチナ解放人民戦線)やGCPFLP(パレスチナ解放人民戦線総司令部派)は中でも過激派に属する集団である。⇒PFLP。

アラモード [à la mode (仏)] 最新流行の、流行に従って。



亜硫酸ガス (ありゅうさん) 硫黄分 (いおうぶん) を燃やすとき発生する硫黄と酸素の化合物。重油を燃やすと発生し産業公害の原因となる。生活環境に対する安定基準は 0.05PPM。化学式は SO_2 で気管支炎、肺炎、結膜炎などの中毒症状をおこす。

亜流政權 (ありゅうせい) その時の政權 (せい) に追随 (すい) して同じような政策をとって、かわりばえのしない、二流級の政權。亜流は追随者の意。

アルエイチ因子 (いんし) ⇨ Rh 因子。

アルカリ清酒 (せいしゅ) 特殊の樹脂に塩素分 (酸性) を吸収させて水をアルカリ性にし、それで作った清酒。普通の清酒よりは酸度が大幅に低いので酸性食品を避けている人に健康上利用される。ベーシック (アルカリ性の) 清酒として市場に出ている。⇨アルカリ性食品。

アルカリ性食品 (いんきせき) 食物中の他の無機質 (ナトリウム、カリウム、カルシウム、マグネシウム) が燐、硫黄、塩素より多く含まれている食品のことで、野菜、果物、イモ類、牛乳などがある。アルカリ性食品とは反対に、燐、硫黄、塩素を多く含む食品が酸性食品で、肉類、卵、穀類など蛋白質を含む食品がそれである。

アル中 (ちゅう) アルコール中毒症の俗称。酒などのアルコールによる中毒で、いわゆる酩酊 (めいとう)、二日酔いは急性中毒。慢性になると妄覚 (小動物が動きまわって見える)、幻覚、幻聴 (大ぜいが寄ってたかって自分をのしるようにきこえる)、錯乱、興奮などの精神障害や身体障害を伴うアルコール精神病になる。根気のよい治療でなおる可能性もある。

アルバイト [Arbeit (独)] 本来の意味は労働、業績、卒業論文などのことであるが、日本では専ら内職の意味に使われている。内職は英語ではサイドワーク (side work) という。アルバイトを内職の意味に使うのは日本だけで、本業の他に、きまった収入以外の収入を得るため働くこと。

アルペンスキー [Alpen ski] アルプス地方で発達した山岳スキーのことで、アルペン種目といえば、滑降、回転、大回転のこと。距離、リレー、ジャンプなどを競うスキー競技をノルディックスキーという。⇨ノルディックスキー。

アルミ・サッシ [alumi sash] ガラスをはめたアルミニウム製の窓ワケや数居などの総称。軽く耐久力があるので広く普及した。

アレルギー [allergy] ギリシア語で「かわった反応能力」の意。一般には、ふつうの人には何の障害もない物質が、特定の人に病的な現象をおこすこと。そういう体質をアレルギー体質といい、ぜんそく、ジンマシン、ペニシリンショックなどが起こりやすい体質。核物質について恐怖、嫌悪などの過敏な抵抗を示すことを「核アレルギー」という。⇨核アレルギー。

アレンジ [arrange] 編曲、脚色、整備、まとめるなどの意味。

安価な政府 (あんか) 「小さな政府」ともいう。組織なども小じんまりとした安あがりの政府。アダム・スミスのチープガバメント (Cheap govern-

ment)。政府機能としての財政支出を、国防、司法、公共事業などの民間ではできない、または民間事業としては不適当なものに限るべきであるとする考え方で、スミスの自由放任主義時代における財政思想。政府機能を拡大せざるを得ない福祉国家思想などと対比する。⇒夜警国家、福祉国家。

あ

アンクタッド [UNCTAD] United Nations Conference on Trade and Development の頭字語で国連貿易開発会議。1964年国連に常設された国際機関で、南北問題などの検討や対策の勧告などを行っている。1972年、中国が参加してチリのサンチャゴで第3回総会。⇒南北問題。

アングラ under ground (アンダグラウンド) の略で地下の意味。日本ではアングラ喫茶、アングラ出版など表面に出せない退廃的な意味に使われる。

アングラ経済 (アンダグラウンド・エコノミー) 麻薬、賭博(どく) など人にかくれて行なう経済行為のことだが、最近では脱税行為など税金対策に不正な方法を取り入れる経済のやり方をアングラ経済という。

アンケート [enquête (仏)] ある問題についていくつかの質問や回答用の意見を並べた同文の回答書を、各方面に配布して多人数の自由な意見や回答を求める小規模の世論調査の一形式。⇒グリーン・ペーパー方式。

暗号解読 (アンコード) 一般には国家間、企業間などで、重要事項を通信で送る場合、他国、他企業に知られないように相互間で特に定めた暗号で送るが、この暗号を暗号表を使って平常の通信文に変える作業を暗号解読という。また遺伝学の方では、遺伝の作業が行なわれるためには、遺伝の主役である DNA の遺伝の内容(遺伝情報という)の伝令役をする RNA が遺伝情報を細胞質中に伝達すると、RNA はそこで伝達の内容に適応するタンパク質を作る。このタンパク質を作る作業は、DNA の伝達の内容がわかったからで、これは暗号を解読したことで、これを暗号解読といっている。⇒遺伝子、DNA、RNA。

アンコール・アワー [encore hours] 視聴者の希望などで既に放送した番組を再放送する時間帯。アンコールは一定の演奏や歌唱が終ったあと聴衆の多数の拍手にこたえて更に出演すること。

アンサンブル [ensemble (仏)] 音楽では器楽で少人数編成の合奏グループ、服飾関係ではコートとドレス、ワンピースと上着などの調和のとれたワン・セットをいう。ensemble はフランス語で集合の意。

安全間隔 (あんぜんかんかく) 歩道のない道路で自動車が歩行者の側を通るときは、歩行者との間に安全な間隔を保ち、または徐行することを決めた改正道路交通法で、歩行者の安全を図るための措置(そと)。

安全基準 (あんぜんきじゅん) 生活の安全を保つために施設、設備やその取扱い方についての災害防止に必要な規制。最近では公害が生活の安全を脅かす度合いがひどくなったので、水、空気、その他一般環境に対して、これ以上は危険であるという PPM で表わした数値を、安全基準とする方向に多く使われるようになった。

安全教育 (あんぜんいく) 産業災害、交通事故に対処しようとする社会教育の一環で、事故を未然に防ぎ、事故に対する安全確保に必要な知識、技術を教育することで、社会教育の一つ。

安全工学 (あんぜんこうがく) 危険に対する安全、爆発燃焼に対する安全、材料資材の安全、産業公害や労働衛生などの環境の安全などについての諸問題を科学技術の面から研究する学問。

安全操業 (あんぜんさうぎょう) 安全に海上で操業すること。特に日本の漁船が南千島近海で操業するとき、領海侵犯の理由で捕えられることのないような措置をソ連に対して申入れているが、平和条約締結を条件にして、ソ連は積極的には応じようとしなない。サケ・マス・ニシンなどの漁量制限と共に北方漁民の死活問題なのでこの安全操業が待望されている。

安全保障体制 (あんぱんたいせい) 一般的な意味での安全保障体制と、日米安全保障体制(日米安保または安保)との二つの意味がある。一般的な意味では、国家の安全を一国の軍備や他国との同盟に求めず、国際社会の多数の国が共同して相互に防衛する体制。国家の安全とはその政治的独立、領土・国民の安全から平和構造の維持までを含めていう。⇒安保体制。

アンタイド・ローン [untied loan] ⇒タイド・ローン。

アンダーグラウンド [underground] ⇒アングラ。

アンタッチャブル [untouchable] 触れられない、近づけないの意。印度の最下級賤民(賤)のこと。印度では憲法で、この不可触賤民の差別廃止をうたっているが、社会的にはまだこの賤民階級は残っている。

アンチ・ダンピング制度 (あんてい) 反ダンピング制度ともいわれる。米国で、国内関連産業の受ける打撃を防ぐために、国内の業者から提訴された外国商品について、財務長官はその商品の価格がダンピング価格として認められるかどうかを調べ、ダンピングの疑いありと認められた場合は、反ダンピング関税(不当廉売防止関税)を課して輸入商品の価格をつり上げて国内産業を保護する制度。⇒不当廉売防止関税, ダンピング。

アンチテーゼ [Antithese (独)] 一つの主張に対する反対の主張。反対命題(哲学用語)。一般には反対意見, 反論の意味。⇒命題。

アン・ツー・カー [en tout cas (仏)] 赤褐色の多孔性人工土。陸上競技場やテニスコートの地面造りに使われる。水はけがよい。

安定恐慌 (あんていこう) インフレ期の物価騰貴は企業を刺激して生産を拡大するが、一方、通貨安定策による通貨調整過程で購買力が急激に減少し、それによる企業の倒産や失業増加などの恐慌状態をいう。⇒恐慌。

アンティーク [仏 antique] アンチックともいう。流行語としては古美術品、骨董品などの意。アンティークブームは骨董品ばかり。美術的価値の高いもの、古道具などで、薩摩のキリコガラスや花瓶、柱時計、煙草盆など明治時代の生活用品などに人気がある。

安定条件 (あんていじょうけん) いろいろの経済要因の量的な数値が均衡値から離れたとき、均衡値へ安定的に近づけようとする経済的な条件をいう。この